

❀ 36年の春秋

私が入所したのは1981年、昭和56年ですから、かれこれ36年間研究所にお世話になったこととなります。入所の頃は奈良国立文化財研究所の時代で、平城宮跡発掘調査部には計測修景調査室があり、考古第一調査室は名目上は7名の調査員がいるという、今から思えば夢のような時代だったかもしれません。ただその場にあわせた者にとっては、必死で調査をやっていたというのが偽らざる所でした。その後、1993年にカンボジアの調査が仕事に加わり、2001年の独法化、2010年の平城遷都祭等、色々な経験をさせていただきました。

ただ、今思えば、常に思い続けていたのは、仕事としての研究と個人の研究者として立ち位置とのバランスだったような気がします。この課題はおそらく今の所員の方々も常に考え、思い悩む点ではないかと思います。入所の頃から比べると所員の数は2/3に減り、仕事量は倍増している現状ですから、1所員にかかる負担は、相当に増えていることは事実です。しかしだからこそ、個人研究の進展が研究所の研究と発展を支えていくという構図は、より強くなっているように感じます。所員の今後の活躍に期待しています。長い間お世話になりました。ありがとうございました。 (副所長 杉山 洋)



林部長・杉山副所長・小池センター長(左から)